

ラテンアメリカ・カリブ海地域における女性の進出

ラテンアメリカ・カリブ海諸国は、33カ国。人口は約6億2000万人。スペインの旧植民地諸国（メキシコ、アルゼンチン、キューバなど）・ポルトガル（ブラジル）と、カリブ海のイギリス（ジャマイカなど）、フランス（ハイチ）、オランダ（スリナム）の旧植民地諸国からなっています。白人系の住民の他に、約1億人のアフリカ系住民、5000万人の先住民が住んでいます。カリブ海諸国の先住民はほぼ絶滅しています。

スペイン・ポルトガル植民地から独立した国々では、歴史的に旧宗主国の文化を引き継ぎ、マチスモと呼ばれる男性優位主義の考え方が社会の中に深く根をおろしています。女性、黒人、先住民は差別に苦しみ、中でも女性は二重の差別を受ける複雑な問題があります。

そうした中でも、地域では、2014年3月、6カ国で元首あるいは政府首班が女性でした。世界の15名の女性最高指導者のうち、3分の1以上を占め、地域の人口の40%が女性指導者の治世の下にあります。このことは、女性の進出の大きさを示しています。6名は、アルゼンチンのクリスティーナ・フェルナンデス（2008-）、正義党（ペロン党）、コスタリカのラウラ・チンチージャ（2010-2014）、国民解放党、トリニダード・トバゴのカムラ・パサード＝ビセッサ首相（2010-）、「人民のパートナーシップ」連合、ブラジルのジルマ・ルセフ（2011-）、ブラジル労働党、ジャマイカのポーティア・シンプソン・ミラー首相（2012-）人民国家党、チリのミチェレ・バチェレ大統領（2014-）、社会党です。

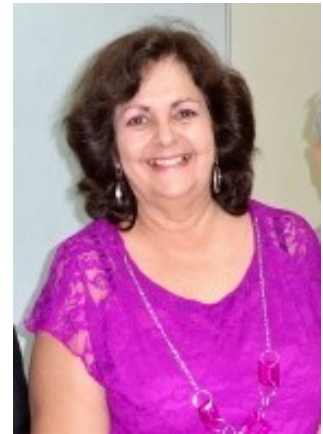
この地域では、90年代以降13カ国において選挙で一定の女性議員の議席（20～50%）を割り当てるクオータ制が導入されたこともあり、女性議員は、地域の国会議員数の26%を占め、世界で最も高い数字です。これは、70年代の軍政（ブラジル、アルゼンチン、チリなど）による市民弾圧に最も苦しみ、抗議行動に大きな役割を果たしたのが女性であったこと、また、80年代、90年代に地域を席卷した新自由主義政策による失業、インフレ、賃金の下落、社会福祉の切り捨てに最も苦しんだのが家庭の女性であり、新自由主義政策に反対する大きな力となったのも女性であったことからきています。6名の最高指導者のうち、チンチージャさんを除いて5名が新自由主義政策に批判的なのは、偶然ではありません。

しかし、その他の面では、地域全体としてのジェンダー格差指数は70%止まりで、75～72%の北米、ヨーロッパ、中央アジアの諸国よりも低い数字です。これは、マチスモの影響や新自由主義政策の影響で女性の就業率・進学率が低いこと、男女賃金格差が大きいこと（男性の7割程度）、家庭内暴力が少なくないこと、女性の経済自立度が高くないことなどによるものです。女性就業者は、女性人口2億2800万人の50%しか占めず、男性の80%に比較してかなり劣っています。無収入の女性の比率は女性の32.7%で、男性の12.1%と比べると女性の経済的自立が遅れています。

ラティノバロメトロという地域最大規模の世論調査では、女性は家庭で、男性は外で働

くものと考える人は、地域の 37%で、この 10 数年変化がありません。女性の経済的自立の推進にはこうした考え方を必要と変える必要があります。

ラテンアメリカで最も女性の地位が改善され、進出が目覚ましいキューバの例を挙げますと、現在、女性の就業率は約 38%、小学校就学率 99%(革命前 56%)、女性が占める率は、大卒者の 60%、技術者などの専門職 66%、医師の 70%余、判事・検事の 70%余、科学研究者の 49%、全国の地方行政の幹部の 40,2%、政府の閣僚 8 名で、38%、国会議員の 48,8%、国家評議会委員 13 人で、42%、と、国際女性デー前日の 7 日、キューバで会ったキューバ女性連



マイダ・アルバレスさん盟(FMC)書記局員のマイダ・アルバレスさんは、誇らしげに語っていました。

毎年 3 月 8 日の国際女性デーは、ラテンアメリカでも 1920 年代から開催され、各国で屋内外での集会、デモ、コンサート、文化行事など多彩な行事が催されます。テレビ、ラジオは、特番を放送しますし、新聞も特集記事を掲載します。筆者が経験したところでは、キューバ、ベネズエラ、エクアドルでは、男性は知り合いの女性に会うと「おめでとう」と挨拶をします。各職場で 1 時間程度、女性全員に赤いバラが一本贈られ、ケーキやジュースで祝います。こうした国際女性デーの行事は、未だ様々な面でジェンダー格差がみられるラテンアメリカで、格差、女性の権利の向上を考える良い機会になっています。

2015 年婦人通信 3 月号掲載文に加筆。

2015 年 5 月 29 日 ラテンアメリカ研究家 新藤通弘